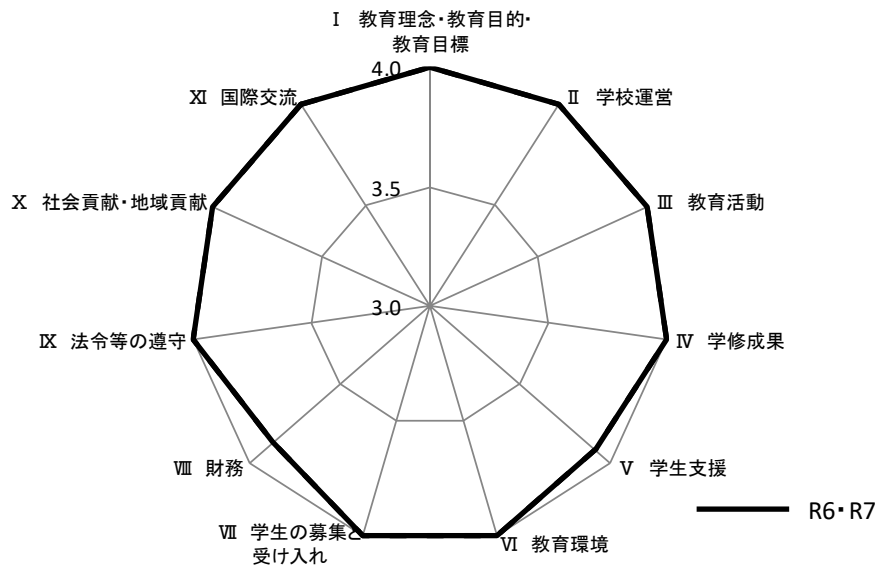


# 令和7年度 自己評価・学校評価結果

## 【令和7年度 自己評価】



大項目		中項目	評価項目	R7年度		R6年度	
領域 I	教育理念・教育目的・教育目標	1-1	教育理念・教育目的・教育目標	4.0	4.0	4.0	4.0
領域 II	学校運営	2-2	運営方針	4.0	4.0	4.0	4.0
		2-3	事業計画	4.0		4.0	
		2-4	運営組織	4.0		4.0	
		2-5	人事・給与制度	4.0		4.0	
		2-6	意思決定システム	4.0		4.0	
		2-7	情報システム	4.0		4.0	
領域 III	教育活動	3-8	目標設定	4.0	4.0	4.0	4.0
		3-9	教育方法・評価等	4.0		4.0	
		3-10	臨地実習	4.0		4.0	
		3-11	成績評価・単位認定等	4.0		4.0	
		3-12	資格・免許の取得の指導体制	4.0		4.0	
		3-13	教員・教員組織	4.0		4.0	
領域 IV	学修成果	4-14	就職率	4.0	4.0	4.0	4.0
		4-15	資格・免許の取得率	4.0		4.0	
		4-16	卒業生の社会的評価	4.0		4.0	
領域 V	学生支援	5-17	就職等進路	3.5	3.9	3.5	3.9
		5-18	休学・退学への対応	4.0		4.0	
		5-19	学生相談	4.0		4.0	
		5-20	学生生活	4.0		4.0	
		5-21	保護者との連携	4.0		4.0	
		5-22	卒業生・社会人	4.0		4.0	
領域 VI	教育環境	6-23	施設・設備等	4.0	4.0	4.0	4.0
		6-24	防災・安全管理	4.0		4.0	
領域 VII	学生の募集と受け入れ	7-25	学生募集活動	4.0	4.0	4.0	4.0
		7-26	入学選考	4.0		4.0	
		7-27	学納金	4.0		4.0	
領域 VIII	財務	8-28	財務基盤	3.5	3.9	3.5	3.9
		8-29	予算・収支計画	4.0		4.0	
		8-30	監査	4.0		4.0	
		8-31	財務情報の公開	4.0		4.0	
領域 IX	法令等の遵守	9-32	関係法令・設置基準等の遵守	4.0	4.0	4.0	4.0
		9-33	個人情報保護	4.0		4.0	
		9-34	学校評価	4.0		4.0	
		9-35	教育情報の公開	4.0		4.0	
領域 X	社会貢献・地域貢献	10-36	社会貢献・地域貢献	4.0	4.0	4.0	4.0
		10-37	ボランティア活動	4.0		4.0	
領域 XI	国際交流	11-38	国際交流	4.0	4.0	4.0	4.0

## 令和7年度 自己評価の分析と今後の課題

岡山赤十字看護専門学校

カテゴリー	分析と今後の課題
I 教育理念 教育目的 教育目標	<p>赤十字の基本原則である人道（ヒューマニティー）に基づき、豊かな人間性と看護に関する幅広い基礎的能力を備えた看護実践者の育成のために、全国赤十字看護専門学校共通の教育目標及び卒業時の到達目標を明示し、赤十字活動や災害看護、倫理教育、医療安全教育、看護技術教育に力を入れている。入学時オリエンテーションや実習オリエンテーション、保護者懇談会での説明、教育課程の配布説明をし、学生や保護者、学校関係者（実習施設）に周知している。少子化に伴い受験者数が年々減少しており、入学してくる学生層の変化に柔軟に対応しつつ、教育の質を維持していくため、教育内容、方法、環境を整備し、学生一人一人に対して丁寧な指導を継続する。</p>
II 学校運営	<p>教育理念・教育目標を踏まえて各年度の学校運営方針を検討し、具体的な目標設定と事業計画を立て、教職員の役割分担を決めて実施している。学校運営に関する審議は学校・設置医療施設以外のメンバーを加えた学校運営委員会、教育会議、教師会議等で行い、会議録も適切に作成し開示している。</p> <p>令和7年10月21日に受けた岡山県保健医療部医療推進課による「看護師等養成所の指導調査」では、主に「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」に沿って調査されたが、特に文書を持って指導する事項はなく、適切に学校運営がなされているとの結果をいただいた。</p> <p>教職員配置については、保健師助産師看護師学校養成所指定規則第4条や日本赤十字本社看護専門学校規程第6条にある専任教師の規定数を満たしている。しかし、ここ何年か定年退職者や中途退職者がおり、専任教員の確保と経験に基づいた領域担当者の固定が望まれる。可能な限り教員確保と定着、スムーズに専門分野の教員交代を行っていくことが課題である。</p> <p>学生への情報提供については、緊急連絡網・安否確認システムや学年毎のメールアドレスを使い、スピーディーに行うことができている。重要な内容を口頭だけではなく、文書として提供し伝えるように努めている。また、今年度末までに、ホームページで「在校生の皆様へ」を利用できるように調整中であり、学生に必要な「学生生活ガイドブック」等や提出書類のひな型などの閲覧やダウンロードが可能となる予定である。令和4年9月より、日本赤十字社全社統合情報システムの利用開始となり、Webアンケートの実施集計や職員間でのネットワークでの情報の共有が可能となるなど徐々に利用を拡大している。データ保存をUSBメモリーで行っていたが、年度末に全データをクラウドに上げ、適切な情報管理やペーパーレス化に務めた。</p>
III 教育活動	<p>＜教育方法・評価＞</p> <p>教育理念・教育目的目標達成に向けて体系的に科目編成したカリキュラムを構築している。各分野に関する考え方と具体的内容を明示し、各科目の教授内容の提示様式を統一して学生に説明することで、学生が主体的かつ興味関心をもって授業に参加し、理解に繋がる学習への動機づけになることを狙っている。看護教育効果については、設置医療施設と情報交換を行い、卒業生の成長は委員会報告を通して知る機会を得ている。卒後1年目の看護師を対象に、6月頃にホームカミングを開催し、就職後の状況を把握し、在学中の教育に対する意見を聞き取り、改善に努めている。</p> <p>時間割で授業が入っていない時間は、学科担当を中心に、国家試験対策、技術演習等を行い、単位認定試験の後はタイムリーに試験の振り返りを行い知識の定着に努めている。</p> <p>毎年、キャリア教育を行い自己の社会人基礎力を評価し、さらに年間を通して業者のガイダンスを積極的に取り入れ、社会人としての基礎的能力の向上を目指している。放課後も学習や技術練習に取り組む学生が見られる一方、学習習慣が身につかず、基礎学力が不十分な学生もおり、成績は二極化している現状にある。この状況を改善し学習の習慣化を目的に、今年度は業者のe-ラーニングを活用し、毎日学生に国家試験問題を配信した。模擬試験の結果からも、1年間を通して日々問題に取り組むことで知識が定着しつつある。しかしながら、自主的に何かに取り組むことが難しい学生もおり、引き続き支援が必要である。</p> <p>授業評価は、各担当講義終了時と担当領域実習終了時に実施している。評価内容をふまえ、教授方法を改善し、実習指導に活かすようにしている。また新任者に対して教員間で授業評価を</p>

	<p>行っており、教師力の研鑽に欠かせない活動として続けている。</p> <p>入学する学生の学力が全体的に低い傾向にあるため、今後も入学時のオリエンテーションから国家試験を見据えた学習への取り組み方の指導を継続していく。</p> <p>&lt;臨地実習&gt;</p> <p>看護実践に対する考察を深められるように学内の演習から、コミュニケーションや援助技術向上を目指した指導を行った。また、臨地での経験を学内でリフレクションする時間を充実させたことは、学生個々の実習（体験型学習）のまとめとなり、課題達成につながり、次の実習準備になっていると言える。</p> <p>1年生の技術演習および3年生の実習まとめの会に各病棟の実習指導委員が参加している。演習参加にあたり、事前に資料をもとに打ち合わせを行い、制限された時間ではあるが、学校での教授内容や実際の学生の様子を共有し、臨地実習での指導に活かす機会としている。今後も病棟と情報共有していく。</p> <p>&lt;看護技術教育&gt;</p> <p>厚生労働省が提示している看護師教育の技術項目 13 項目 71 技術に対して到達規準の見直しのもと、学生が主体的に技術習得計画を立て、経験を積み重ねていけるサポートを行った。技術演習では1年生の基礎看護学実習 I 後期開始前の床上洗髪における技術演習を、2年生が模擬患者となり実施するなど、他学年を交えて実施した。1年生は先輩に実施することで、緊張や焦りなどにより手技だけに集中してしまい、コミュニケーションや環境への配慮不足、全身状態の観察を怠る危険性などに気付くことができた。また、2年生は後輩の手技に対する不安や遠慮を感じるなど患者の心情を実感し、それぞれがリフレクションしながら学びあう学習が相互の成長へつながった。他者への関心や思いやりの希薄さ、コミュニケーション能力の低さに関しては、看護技術教育の中で、単純な手技の体得から、環境整備、観察、安全・安楽、コミュニケーションを統合した看護技術としての修得へと段階的に教育していく必要が示唆された。昨年度から、技術教育の評価を授業科目の単位認定（成績）に定め、今年度は実技試験の項目を「バイタルサイン測定」、「車椅子移乗と移送」「臥床患者のリネン交換」「臥床患者の洗髪」の4項目とし、成績評価に含めた。合格基準等の評価方法は、今後も検討を重ねていく。技術試験を実施することで一時的に技術は上達するが、継続した練習をすることが難しく、特に放課後の時間を使って練習する学生はわずかである。今後も時間割に技術練習を組み込み、技術指導を継続していく必要があると考える。</p> <p>&lt;教員・教員組織&gt;</p> <p>各領域担当科目の専門的学びを探究した授業と実習指導ならびに分担業務遂行のための計画調整をしている。業務遂行のためのマニュアルや手引きは適宜見直している。</p> <p>教員資格をもった教員1名が、さらなる教育力の向上を目指し、自費で2025年度大阪府専任教員養成講習を受講、修了した。また、1名が教員ラダーレベルⅡの評価会を実施し、申請中である。今後も、教員の資質向上への取り組みとしての教員ラダー認定や救急法指導員の資格取得 及び継続研修など、赤十字看護専門学校の教師としてのレベル向上を目指していく。</p>
<p>IV学修成果</p>	<p>第75回生は37名が卒業予定で、そのうち1名が進学（助産）、32名が設置医療施設に、1名が県外の赤十字医療施設、3名がその他の医療施設に内定している。設置施設医療施設への就職率はR7年が86.5%（R6年は76.9%、R5年は75.7%）である。学生は希望する進路に進むことができた。資格・免許の取得率については100%を目指し、3か年学習計画のもとに各学年で計画的に取り組んだ。今後も学習が習慣づくよう支援していく。就職活動支援として、例年母院の看護部長からの就職ガイダンスをはじめ、その他の医療施設に関しては休憩室に就活支援の冊子のリーフレットを設置している。</p> <p>卒業生の社会的評価については、設置医療施設に就職している場合、一定の情報は把握できており、今年度の早期離職者は1名であった。必ずしも赤十字の看護師を希望してきている学生ばかりではなく、進路に迷いつつも資格だけは取得する学生も一定数いることを理解し対応していく必要がある。</p>

<p><b>V 学生支援</b></p>	<p>低学年から就職情報業者による講座を含むキャリア教育を実施し、進路支援を行っている。3年生は設置医療施設に就職した卒業2年目の看護師から国家試験対策と就職後の勤務に関する講話を受講することで、進路意識の向上に繋げた。個々の学生の進路指導は、年々早まる就職試験に対応できるよう、学科担当による希望調査をもとに、チューターが希望する進路実現ができるように支援している。また、必要に応じて長期休暇などを利用したインターンシップへの参加も勧めており、参加後はチューター面接などで内容を把握し、教員間で情報共有している。</p> <p>今年度の退学者は6名で進路の迷い、心身の不調、不慮の事故などが理由であった。休学者は5名で、チューターが主となり定期的に休学中の現状把握をして復学に繋げている。また、精神的安定を図るため必要に応じてチューターが個人面接を行っている。また、定期的にストレスチェックを行い、メンタルヘルスサポートの利用を促す等支援している。</p> <p>対応困難な学生に対しては、設置医療施設の公認心理師に相談して助言を仰いでいる。保護者に対しては、1年生は入学時と12月に、2年生は5月、3年生は4月に対面で懇談会を開催した。また、懇談会のみではなく、必要に応じて電話等個別対応している。インフルエンザ感染症など特別休暇による出席停止の扱いに関しては検査日を含め学生が不利益にならないよう対策を継続している。</p>
<p><b>VI 教育環境</b></p>	<p>校舎全体の老朽化に伴う不具合に対し、その都度修繕をしている。今年度、日本赤十字社本社の付帯施設の環境整備に関する補助金500万円を利用し、LED照明器具変更、トイレの洋式化や手洗いの自動水栓化等の設備改修を実施した。</p> <p>「看護師等養成所の指導調査」では、学校の施設・設備等は関連法令等の基準を遵守しており、教育環境に関する指導は特になかった。専門技術を修得するため器械器具、標本、模型および図書は看護師等養成所の運営に関する指定規則に遵守し、学生の意見も取り入れながら随時更新している。今後も状況に応じて備品を揃えていく予定である。</p> <p>岡山赤十字看護専門学校同窓生からの寄付や、同窓会、日本赤十字社看護師同方会、日本赤十字社有功会からの助成金により、呼吸音聴診シミュレーター“ラングⅡ”を寄付していただいた。電子教科書については、学生はiPadを使いこなしスムーズに導入できている。しかし、学習効果が十分得られていないと感じることがあり、状況により紙媒体の教材を利用しながら学習を促している。</p> <p>実習等での安全管理ではWill加入で対応している。防災に関しては、消防署の方にも参加していただき学校火災避難訓練、岡山市消防教育訓練センター水難救助訓練施設にて風水害体験、災害拠点病院医療救護要員研修会で2年生が患者役で参加、大規模災害訓練実施等により防災意識を高めた。BCPについては毎年検討を重ねている。</p>
<p><b>VII 学生の募集と受け入れ</b></p>	<p>今年も在校生全員が学生募集活動にボランティアとして参加し、教職員とともに本校の魅力を伝えた。また、中国・四国地方を含む県内外の高校訪問先では、赤十字の魅力、チューター制を活用した丁寧な関り、設置医療施設と同敷地内の恵まれた実習環境などを直接伝えることを重視して情報発信したことにより微数ではあるが受験者数増につながった。今後も専門学校ならではの魅力を含めて情報発信をしていく。</p> <p>業者主催による学校説明会参加は例年通り無料開催内で実施をして充実した実習環境、赤十字の魅力等をアピールした。在校生による母校訪問は県内外で母校からの受験者（後輩）が継続されることを目指し、学生ならではの視点で本校PRを実施した。次年度も訪問校を厳選しながら継続する予定である。オープンスクールは昨年同様5月から6回実施した。学校紹介、看護技術の実施や在校生との座談会とともに本校オリジナルの赤十字不織布カラーバッグと学校名入りボールペンを参加者に配布しながら、更なる知名度アップを図った。また、参加保護者に対しては、担当者が学生募集内容の説明とともに本校の魅力を伝えるとともに、質問コーナーを設け、不明・不安な点の解消となった。今年度6回の開催において参加人数の偏りがあること、今後の在校生数の減少に伴うボランティア時間の確保が困難なこともあり次年度は開催時期と回数を5月と7月それぞれ2回ずつに変更する。</p> <p>18歳人口が減少し、看護師を目指す入学生も減少している。看護の魅力を発信し、選ばれる学校になるよう、今後も様々な活動を行う予定である。</p> <p>ホームページの新着情報掲載は、担当者中心に掲載をタイムリーに実施し、月2件ペースで掲載している。在校生保護者からの要望もあり、各学年の様子が伝わるよう掲載内容を再考していった。</p>

	<p>学納金は、日本赤十字社看護専門学校学則準則に則り教育内容、必要経費を基本に算定している。経済的に困窮している学生が恩恵を受けられるように、「高等教育の就学支援新制度」の活用及び昨今の物価高騰による消耗品等の支出増加を考慮して他校と比較しながら学納金を変更している。更に令和 9 年度より専門実践教育訓練給付金制度を活用した社会人受験者増を目指す。また、指定校推薦の実施、入試科目についても科目数の減少、科目選択などを今年度から取り入れ本校受験者数増を今後も目指していく。入学者選抜では入学試験合格者選考基準に則り、合格者入学辞退率データも参考にし、合否判定会議により決定している。</p> <p>県内赤十字関連主催の赤十字フェスティバルでは、看護学生体験を主に本校の魅力を近隣の方々に知っていただく場となっており、次年度以降も本校の魅力を幅広い年齢層に周知いただけるよう内容を再考していく。また、今年度は学校創立 90 周年を迎え、ホームページや病院広報誌、病院ロビーでのパネル展などで本校の紹介をして周知度アップを目指した。</p>
<p><b>VIII 財務</b></p>	<p>学校会計は、今年度より設置医療施設の会計課に管理を一任し、適切に会計処理を行っている。予算検討や収支報告は、支部・設置医療施設・学校の三施設が参加する学校運営会議で行われている。学校の財源基盤は、学生納付金・補助金・看護師養成維持管理費等が約 53%、設置医療施設が約 47%である。入学試験受験者や在学生数の減少や燃料価格高騰による光熱費の増額により年々設置医療施設の負担は増している。令和 8 年度入学生より、施設整備費の値上げを実施する予定である。IT 化に伴い、教材備品内容も変化してきており、職員全員がコスト意識を持ち、今後も教材備品の新規購入等を計画的に行っていく。施設整備に関しては、学校と設置医療施設の施設課・会計課・用度課と連携し行っている。</p>
<p><b>IX 法令等の遵守</b></p>	<p>関係法令や看護学校設置基準等、岡山赤十字看護専門学校学則・細則に基づき、学校運営を行っている。学校自己評価と合わせ、保護者に対し学校運営についてアンケートを実施した。学校教職員の自己評価と保護者によるアンケート結果を受けて振り返り、改善点の明確化と対策を検討している。評価結果は、ホームページに公表し、学校関係者評価会で参加された関係者や保護者から意見をいただく機会を設けている。</p> <p>個人情報に関するデータは、教職員個人の電子媒体には入れず、学校専用の電子媒体を施錠ができる場所に保管している。学生には、入学時オリエンテーションや実習オリエンテーションなど折に触れ個人情報の取り扱いについて注意喚起を行っている。しかし、実習記録の置き忘れ等が発生しており、その都度、振り返りと事例の周知と対策を実施している</p> <p>校内での電子カルテ閲覧システムは、使用規則を遵守し、実習学生の学習に有効活用しており特に問題はない。電子教科書等が入っている iPad の病棟への持ち込みは禁止することとした。生成型 AI については、メリットもあるが、著作権の侵害のおそれや、個人情報の漏洩にもつながる可能性があることを説明し、自分自身で考え知識を蓄えることの大切さと合わせ、利用には注意するよう促している。</p> <p>コンプライアンスの徹底のためにも、倫理観、公正・公平な看護観を養うことができるよう、教職員・学生で研修、教育に取り組んでいく。</p>
<p><b>X 社会貢献 地域貢献</b></p>	<p>日本赤十字社岡山県支部の依頼を受け、教員 1 名が、救急法短期講習、幼児安全法講習などの講師として 5 回参加した。また、「地域づくり作業部会」の教員が、協力者として地域の防災訓練や地域の子ども向けのイベント等に参加した。地域の防災訓練には他の教員も参加しており、今後も地域に向けた活動に教職員が関心をよせ参加するよう促していきたい。</p> <p>2 年次の「赤十字活動論」の講義の中でボランティアの動機付けを行い、ボランティアの計画書を作成、実施後は振り返りを学生間で共有した。学生は地域のイベントの手伝いや清掃、子ども食堂の手伝いなどさまざまなボランティアに参加した。1・2 年生は全員学生奉仕団に所属している。2 年生の学生数名が、昨年の奉仕団の活動内容をパワーポイントにまとめ、年度初めに 1・2 年生に向けプレゼンテーションを行い、奉仕団活動内容について理解を促した。そして、献血や募金の呼びかけ、化学療法中の患者等が使用するケアキャップの作成、設置医療施設に入院中の子ども達へのクリスマスプレゼント作成などを行った。課題としては、奉仕団活動をする学生が限られているため、自分も奉仕団の一員であることを自覚し主体的に取り組むよう、リーダー的な学生の育成や、日本赤十字社岡山県支部職員との連携を図りながら、活動を支援していきたい。</p> <p>1 年生が愛の献血助け合い運動に参加した際や、血液センターより血液が不足し献血依頼があった際など、学生が献血に参加した。また、骨髄バンクに登録した学生もいた。</p> <p>重要な社会的問題に対する問題意識の醸成として、COVID-19 やインフルエンザの発生状況</p>

	<p>や対応、紛争や災害について注視し行動するよう促した。また、1年生は喫煙と危険ドラッグをテーマにグループ学習した内容を学校祭で発表するなどし、健康問題や環境に及ぼす影響についても学生全員で考えることができた。</p> <p>岡山赤十字フェスティバルが5月17日に開催された。地域の方に来ていただき、医療・健康から介護・防災まで幅広い内容を提供しているイベントで、学生もスタッフとしてそれぞれのブースで役割を果たし、地域の方々と交流した。</p>
<b>XI 国際交流</b>	<p>本校の教育は赤十字の一員として国内外で活躍できるための基礎能力を養うことを目標にしている。「日常英会話」では2名、「異文化論・グローバルヘルス」の科目では3名の在留外国人の方を招き交流をもった。また、本校では、3年に1度、実際に国際活動に参加した方に講演をお願いしている。来年度講演会を企画し、学生の国際活動への関心が深められるよう努めていきたい。</p>

## 【 令和7年度 学校関係者評価 】

3月に実施している学校関係者評価会（参加者は、保護者の代表者、運営会議により選出した外部関係者、教職員）で、教職員が作成した自己評価結果と、保護者アンケート結果を発表し、意見交換し学校関係者評価を行っている。自己評価の内容に特に意見はなく、その結果を議事録に残しています。